

1992. 4

30年のあゆみ



湯河原ロータリークラブ

1992,4

30 年 の あ ゆ み



湯河原ロータリークラブ



創立20周年記念として、湯河原高校の中庭に植樹されたミモザアカシヤは美しく成長して年毎に枝一杯の花をつけて春の到来を告げている。同校の卒業生達はこの花に送られて巣立って行くのである。今では、この花樹は湯河原高校のシンボルになろうとしている。



ロータリーの綱領

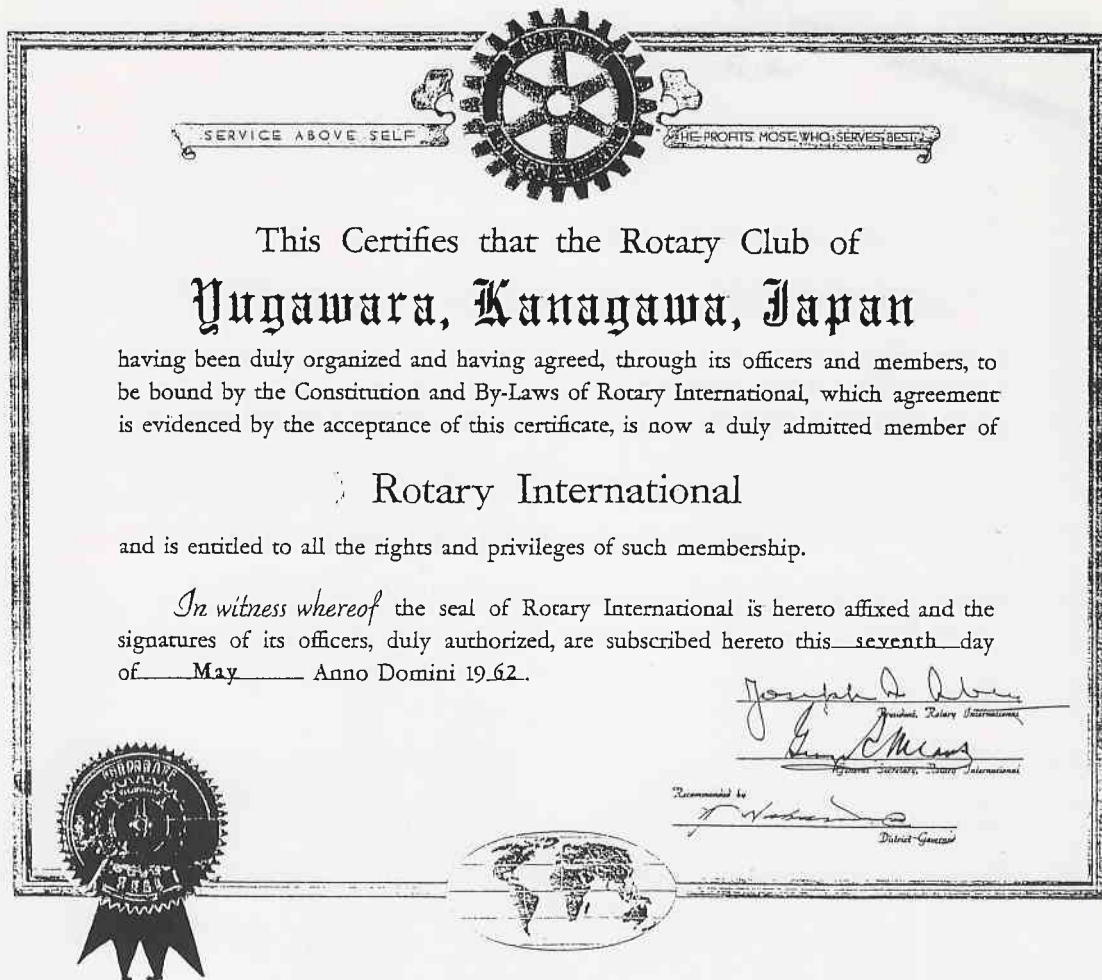
ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成するにある；

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること；
2. 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること；
あらゆる有用な職業は尊重されるべきであると云う認識を深めること；
そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること；
3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
4. 奉仕の理想に結ばれた実業と専門職業人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること；

四つのテスト

実行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか



This Certifies that the Rotary Club of
Yugawara, Kanagawa, Japan

having been duly organized and having agreed, through its officers and members, to be bound by the Constitution and By-Laws of Rotary International, which agreement is evidenced by the acceptance of this certificate, is now a duly admitted member of

Rotary International

and is entitled to all the rights and privileges of such membership.

In witness whereof the seal of Rotary International is hereto affixed and the signatures of its officers, duly authorized, are subscribed hereto this seventh day of May Anno Domini 1962.

Joseph D. Owen
 President, Rotary International

Raymond M. ...
 General Secretary, Rotary International

Recommended by
[Signature]
 District-Generator

湯河原ロータリークラブ

- 創立 昭和37年4月20日(1962)
- 承認 昭和37年5月7日(1962)
- 伝達式 昭和38年3月29日(1963)
- 地域 湯河原町土肥広町通りより鍛冶屋・郡道線を経て東海道線より町道吉浜4号線を北上して川掘部落を除く湯河原町



Look

Beyond

Yourself

自分を 超えた 眼を

ラジェンドラ・K・サブー
(RAJENDRA・K・SABOO)

ロータリアンの皆さん

私たちが、自分の心の底を深く見つめるとき、私たちは時分本位の考え方、言動という殻を脱けだして、自分を超えた世界に導く、内なる力の存在に気がつくことでしょう。この無窮の、躍動する内なる駆動力によって、人の子の魂は大いなる未見の空高く羽ばたきます。そのとき、私たちは夢みるでしょう。使命感を覚えるでしょう。夢とは内なる平和、恐れと飢えのない仕合わせな世界です。使命とは、積極的な奉仕の活動によって、この夢を現実のものにすることです。あなたあればこそ、ロータリーは、この夢、この使命を抱くのです。なぜなら、あなたは自分を超えた眼を大いなる力があるからです。

これは一体あなたにとってどういうことを意味するのでしょうか？ ちょっと考えてみましょう。人生において「自分」また「自分のもの」から「私たちみんなの」という新しい視点への転換は、まずあなた自身の心の内奥を見つめ、それから自分を超えて、あなたの家族、あなたのクラブ、あなたの地域社会、あなたの国、そして私たちの世界へと眼を向けることによって

自然に出てきます。ロータリーの目標——他者への奉仕——が世に輝くとき、あなたの配慮は崇高なものとなります。義侠心に富むあなたなら、人々の生活を名実共によりよくしようと努めるでしょう。他人を助けようと手を差し伸べるようになれば、あなたの思いやりの手が、愛の力になったということです。「他の人々」が、あなたの世界の仲間になったとき、あなた自身が本当に成長するのです。

ひとりのロータリアンとして、あなたは夢みる人であると同時に、行動する人でなければなりません。自分を超えた眼を持つなら、あなたは達成すべき目標を設定し、そしてこれを実現するために行動に移るでしょう。まことにロータリアンであるということは、自分を超えた眼を持つということです。単なるクラブ会員か、ロータリアンかの岐れ道がここに 있습니다。この岐れ道を越えたとき、あなたは私たちの大いなる理想——奉仕の理想を追求する力を得て、その付託に応えられるのです。



創立30執念式典開催挨拶

記念式典委員長 岩井 徳太郎

春風薫る今日の良き日ここに私共湯河原ロータリークラブ創立30周年記念式典を開催するにあたり、国際ロータリー第2780地区山道ガバナーをはじめ御来賓の方々には御多忙の中を御臨席賜りまして盛会裡に開催することの出来ましたことを私共会員一同心より厚く感謝申し上げる次第で御座います。

私達の湯河原ロータリークラブは小田原ロータリークラブをスポンサーとし宮坂特別代表に依り昭和37年4月20日24名のチャーターメンバに依って創立されました。初代会長さんであり産みの親でもあります天野さんに創立までのこぼれ話しをお聞き致しますと県の西端に出来た小さなクラブではあるが此の辺に無い一寸垢抜けした和やかなクラブにしたいとの方針でした。此の方針と伝統は今もクラブの内に受けつがれまして非常にまとまりのいい和やかなクラブになって居ります。また6名の方々がお元気で第1線で活躍御指導下さっていることは、他に余り例の少ない当クラブの誇りでもあります。

創立後10周年20周年とそれぞれの時点に於きまして一つの節目として区切をつけてお祝いし記念事業に奉仕の実践をあげてまいりました。

10周年記念行事の一つには椿ライン愛樹の碑のある山頂に山もみじ4,000本を植樹致しまして夏には全員で下草薙りに奉仕の汗を流して参りまして20年後の今は風当たりの強い一部を除

いて美しい紅葉が箱根越えの人々の目をたのしませ心の安らぎを与えてくれます。かつて林会員が大観山に「此の峠を越えれば人情こまやかなで湯の里がある。藤木川のせせらぎには萬葉の昔が偲ばれる」と案内板に記しましたが、この情緒豊かさがクラブの中に流れて居ります。

又20周年事業には天野さんの御厚意により湯河原高校の校庭に「ミモザアカシヤ」の木を植えて是れが立派に育って、一ばいに黄色な花をつけて春を告げ高校生がミモザの花に送られて各々の社会に巣立って行きます。これこそ地域社会に根ざした意義ある奉仕で御座います。此の度の30周年記念じぎょうには八亀昌美記念事業委員長より発表がありますが当クラブらしい意義ある事業がすでに施行されて居ります。

かくして見ますと過ぎし30年の歴史の重みと更に40年50年に向ってクラブの充実と向上に一同精進する覚悟で居りますのでよろしく御指導下さる様お願い申し上げます。

ここに会員一同に代りまして此の式典に御参加戴きました来賓各位の御厚情と友情に対しまして厚く御礼申しあげますと共に今後益々の御指導と御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

尚、併せて皆様様の御健勝と御多幸を祈念申し上げますとお礼の言葉と致します。



会長挨拶

第30代会長 高知尾 朝行

湯河原ロータリークラブの創立30周年記念式典を迎えるにあたり、御挨拶を申し上げます。

一口に30年と申しますが、湯河原クラブ創立の昭和37年には、私は、まだ高校1年生でございました。自分の上に流れた年月を考えますと、30年の歴史の重さを思わずにはられません。30年間絶えず、ロータリーの輪を拡げ、地域社会の理解を得て、和やかに、月日を重ねてこれましたことは、歴代会長をはじめ、先輩ロータリアンの方々の努力の賜でございます。また、スポンサークラブをはじめ、近隣クラブの皆様の暖かい御指導とお力添えによるものと、心から感謝申し上げます。湯河原クラブの成長を見

守るかのように、大観山の山モミジ、湯河原高校校庭のミモザアカシヤの記念樹がすくすくと成長しております。

私達会員も、自分を越えた眼を持ち、一人一人が、真のロータリアンたるべく自覚を練って、クラブ奉仕に、職業奉仕に、社会奉仕に、努力をしていこうではありませんか。お互いに、手を取りあって、善意の輪を拡げ、奉仕の理想に向けて、新たなる第一歩を踏み出したいと思えます。

皆様の御指導とより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。



三十周年によせて

初代会長 天 野 弘 之

昭和三十六年頃は我が国ロータリーには顕著な風潮が見え始めて来ました。

今迄は比較的著名な地方都市迄を洗っていたロータリーの波がより小さい市町に押しよせつつありました。

ガバナーをやっておられた方々はロータリーの拡大、増強は自己に課せられた崇高な義務の如く感じて居られた様です。

そんな或る日、小田原クラブの例会にいかめしい面持ちの二名の紳士が出席されました。

中村米平ガバナーと岩崎裕俸分区代理でありました。何のために来られたのか不審に思っていました。

やがて食事が終わると中村ガバナーがやおら立上がり此の地区の拡大、つまり新クラブ設立の勧誘を一しきりなさいました。

いつも通りのロータリーのお話と思い軽く聞き流しておりましたが、そのつぎにやおら立たれた岩崎分区代理はむづかしいお顔を一層引きしめられて箱根湯河原の名を出し始めました。

風向きがあまり良くなさ相なので或るべく無関心を装って台風一過を祈って居りましたが、最後には到々つかまってしまうました。現在の湯河原ではとても無理な話と極力反対、弁明に努めましたが、何しろ出席全員のほとんどは小田原の人々なので、よその土地の話とあたらざさわらずにガバナー、分区代理の側に立ち、結

局大勢に無勢で、良く考えてみようと前向きの懸案になってしまいました。強引な岩崎分区代理に立ち迎うすべも無く、已む得ず以前からロータリーに関しては折りにふれ御高配を頂いておりました東京南クラブの佐久間長吉郎ガバナーにお伺いを立てましたら、こと志と反し、大乗気で応援するからやれよとのお返事でした。それではと当時の地区の拡大委員だった清瀬二郎氏（後のガバナー）にお話しました。ところがこちらは大乗気で設立の手続きは一切面倒見てやるとの事でした。いつの間にか話はすっかり軌道に乗ってしまいました。

実際清瀬さんにはとてもお世話になりました。

当クラブの創立が昭和三十七年四月二十日で、承認が五月七日と当時としては異例の急ピッチでびっくり致しましたのも偏に同氏の御尽力のお蔭でした。特別代表宮坂寛次郎氏にも大変お世話になりました。

しかし当クラブ創立に関しては加藤福松氏のお力に負った事を忘れてはなりません。

加藤氏無くせば湯河原クラブの誕生は無かったと申しても過言ではないでしょう。

最初加藤氏は此の話に首をかしげて居られた様でしたが其の中積極的に動いて下され一方ならぬお世話になりました。加藤氏のお口ききで小沢栄三郎氏、直居重雄氏、楢原正愛氏、八亀広蔵氏、高橋柳吉氏其他チャーターメンバーの